2 Ha-1

情動表出による母子相互主体性の成立

大妻女大家政　○浦　由美子　　千羽　喜代子

目的：母子間の相互作用を母親の一方的な働きかけとせず、母子が共に主体的に関わっている場であると考え、それを相互主体性と呼ぶ。相互主体性の質的変化があるとされている時期において、母親の働きかけに対する乳児の情動の表出を母親がどのように捉えて解釈し、どのようにその場に生かしているかを明らかにすることを目的とした。

方法：乳児が生後３カ月から12カ月までの母子２組を対象とした。対象にした２人の乳児はいずれも第一子であり、分娩時の異常はなく、心身ともに正常であった。各月に２回、１回40分程度、遊びの場面と食事の場面をビデオ収録による観察を行った。その記録をもとに相互主体性の顕著にみられる場面を取り上げ、母親が乳児の情動をどのように受けとめ、乳児に働きかけているかを記述した。

結果：母親は乳児の興味の方向を見定め、乳児の発達に見合った働きかけを提示している中で、特に、母親は乳児をできるだけ快適な状態に保つために、乳児の情動の表出に敏感に反応して働きかけを変える。母親の働きかけに対して乳児が快感情を表せば、母親は一緒に共感し、不快感情を表せば今の働きかけを別のものに変え、乳児に快感情を与えるように努めている。このことから、初期の母子相互主体性においては、乳児の情動表出が重要な要因になっているという知見を得た。